（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	就労準備型芳泉（クラス１：就労準備型芳泉）

公表日 令和 8 年 3 月 25 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		6	部屋分けをし、子どもの人数が分散するよう工夫している。	人数に対して狭いと感じる時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		6	こどもの活動内容に応じたグループワーク分け、スタッフの役割分担の明確化、送迎ルートの見直し等を行っている。	通常の人数が少ない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		こどもにわかりやすく構造化された環境、バリアフリー化等、環境上の配慮を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の清掃、整理整頓、消毒等を心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	1階には個別の部屋はないが、必要に応じ、2階の多目的室を使用できる。	個別の部屋がない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	決まったことは全員で共有し、意見をもらい更なる改善に努めている。	勤務時間の関係で、常に全員で話し合うことは難しい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日ごろからご意見をいただきやすい関係性の構築に努めている。	アンケート用紙では把握できない内容をお尋ねしていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	日々の会話の中で改善すべき点があれば、速やかに解決するよう努めている	時間がかかる場合や、改善が難しい場合の説明を丁寧にしていく必要がある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		第三者による外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		自社研修・臨床心理士による研修・外部研修等を実施している	全員が平等に受けられるよう工夫する必要がある
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ上に掲載している	見直しが不十分である
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者面談の際、丁寧にアセスメントを行い、個別支援計画に反映している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		モニタリングシートを使用し、様々な職員の意見を出し合う場を設けている	一日利用の日に出勤する職員の声を聴くタイミングが難しい
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6		朝礼や昼礼等で、その日に利用する一人ひとりの子どもについて共有している	一日利用の日に出勤する職員に共有するタイミングが難しい
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の活動中の様子観察や、職員間の共有、保護者や学校の先生の聞き取りを含め行っている	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		日々の活動中の様子観察や、職員間の共有、保護者や学校の先生の聞き取りを含め行っている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		社員が考えた内容を施設長に相談し、チームで内容を精査している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		同じ内容の活動を継続的に行う場合を除き、新たな内容を考え、子ども達が様々な経験ができるよう工夫している。	

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別活動・集団活動それぞれに対し、一人ひとりの強みが伸ばせるよう、また課題に対してどのような支援を行えばいいかを考えながら計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		必ずチームで時間をつくり、活動の共有と留意点を話し合っている。	朝から子どもが利用する際、すぐに送迎に出発するケースがあるため、開始前の打ち合わせの時間が確保できない場合もある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	6		支援後には経過記録を記入しながら、スタッフ間で話し合いの時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々経過記録を全員で記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		複数のスタッフから意見を徴収し、チームでモニタリングに取り組み、児発管を中心に見直しを行っている。	全員から意見を聞くことができるようになると更によい
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6		月間スケジュールを毎月発行し、偏りがないよう複数の活動を取り入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	3	活動参加時に本人の意見を尊重し、自己決定する力を育てる声掛けや支援を行っている。	こだわりの強化や要求の固定化につながらないよう、発達段階や特性に応じた選択肢を工夫する必要がある
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		全体を把握し、様々な質問にも対応できる職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		総合支援協議会に参加し、必要に応じて相談できるつながりを持つよう心掛けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校の年間計画やお便りは、保護者を通じていただいているため、下校時刻の把握もできている。送迎時の対応やトラブルの連絡も、都度行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6	小学校の高学年以上の子どもが利用するため、該当なし。	該当なし
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		移行先に保護者や相談員を通じて情報提供をしている。場合によっては移行先に見学に出かけ情報共有をしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	2	地域に発達支援センターがない	地域に発達支援センターがない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		地域の他の子どもと交流する機会を作れていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		毎月参加し情報共有をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		特に気になる様子が見られた際は、送迎時に直接お伝えをしたり、保護者に電話で伝え共通理解を持つようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	家族支援の研修をすべての保護者に情報提供し、参加の呼びかけをしている。	面談時に保護者へアドバイスをすることはあるが、家族支援プログラムに関する知識をより深めていく必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用前の契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		利用前にアセスメントで詳細について確認をしている。	保護者に意向が伝わらないケースがあった。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6		事業所に半年ごとにお越しいただき、支援内容の説明を行い、サインをいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者から依頼があった際は、事業所にお越しいただいて面談と助言等を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6	保護者参加の活動時には、保護者同士・きょうだい同士で話ができるような場づくりをしている。	参加したいが仕事で予定が合わない保護者の対応を検討していく必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		重要事項説明書に記載し、利用前に共有させていただいている。苦情があった場合は透明性を重視し、すぐに報告・対応する体制を取っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月のお便りや、Instagram、HPブログ等で活動の様子を発信している。活動予定も月間スケジュールを配布している。	情報提供を行っているが、紙媒体の紛失や、SNSに馴染みがない保護者等への工夫が必要。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		利用前に個人情報の同意書に基づき説明をさせていただき、サインを頂戴している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		状況に応じて配慮が必要な保護者へは、個別対応等、情報伝達の工夫をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		地域の高齢化により、地域の方の参加が難しくなっている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを策定し、職員には研修を通じ、ご家族には毎月のお便りの中で周知している。	マニュアルをご家族に見せて説明をすることができていない
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら各種訓練を定期的に実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		利用前のアセスメント時に確認したうえで受け入れを行うと共に、都度状況が変化した際は保護者より情報をいただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者より確認し、おやつや昼食づくりの際は毎回個別で確認している。	医師の指示書の確認には至っていない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら各種訓練を定期的に実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6		利用前のアセスメント時に情報を共有したうえで受け入れを行っている。	利用後の取り組み内容の周知が不十分である
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	日々の振り返りの中で、該当事項に関して報告書に記載し、情報を共有。再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら研修を定期的に実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		利用前のアセスメント時に説明し、同意書にサインをいただいている。計画書には必要に応じ記載している。	